

「あきらめない生き方～小さな一歩を踏み出すための55のメッセージ～」より 1エピソードを紹介

苦しいときこそ、 笑いを！

「希望」は「笑い」から生まれると思ひ込んでいる。

石巻市に入ってから、あちこちの避難所に救援物資を届けたけど、どこに行っても感じたのが、なんか「笑ったらかん」みたいな空気が流れていたこと。

笑わないと元気にならないからと、まず自分たちが笑顔でいることと、元気に挨拶することを意識した。そして、スキあらば、笑かしにかかった。

石巻小学校の教室に避難していた人たちに、必要な物資を聞いて回ったときも、いつもどおりの自然体で、芸人がステージに飛び出すように、笑顔を全開にして寝泊まりされてる教室に入っていた。

「こんにちはー！ め組JAPANの代表のてんつくマンと申しますー！ こんなときにてんつくマンなんて変な名前ですみません、でも本名も変な名前がついてまして、のりやすひろみつって言うて両方名前みたいなんです。」
へんな名前のおかげで皆さんの表情が緩む。そこにたたみかける。

「今から皆さんにどんな物資が必要かニーズをお聞きしたいと思うので、聞かせてもらっていいですかー」

「じゃあ、下着が欲しい人、手をあげて下さい？」
パラパラと手が挙がる。

「それじゃ、セクシーな下着じゃないと嫌だという人だけ手を挙げて下さい」と言うのと、元気なお姉様が「ハイよ」なんて言いながら手をあげてくれる。するとこう言う。

「えーっと、却下します！」

すると笑いが起こる！

少しでいい。必要なのはこの笑顔だ。

「笑いながら」「楽しく」というと、不謹慎に感じる人もいるかもしれないが、支援作業に笑顔は絶対に必要だと思ってる。

3週間ほど経つと、全国から仲間がいっぱい来てくれた。

この時期に一番大変だった作業が「ヘドロ出し」。街中いたる所にたまっていたドロドロのヘドロは猛烈な臭いを発生しており、そのすべてをスコップでかき出して運び出すのは気が遠くなる作業だ。

ヘドロ出しをしてくれた仲間がこんな話をしてくれた。

あるおじいちゃんとおばあちゃんの家に行つたんです。おばあちゃんが元気なくて、ぼーっとしてて。だから、まず私たちが元気だしていこうと、かけ声出していこう！ と、ひとかきごとに、

「Yes！ We Can！（私たちはできる！）」

と声を合わせたんです。

「Yes！ We Can！」

「Yes！ We Can！」

するといつのまにか元気がなかつたおばあちゃんまで一緒になって、「Yes！ We Can！」の大合唱になった。

それで、おばあちゃんに

「Yes！ We Can！って意味わかる？」って聞いたら

「わからねえ」って。

それでおばあちゃんも一緒に大爆笑になったんです。

すると、おじいちゃんが笑いながら涙をぼろっとこぼされて言ったんです。

「三週間ぶりに妻が笑ってくれた」って。

そして、おばあちゃんも

「私はまだ大丈夫だね。ちゃんと笑えるんだ」って。

震災発生からこの3週間、一度も笑った記憶がなかったらしい。そのおばあちゃんがもう一度、気持ちのいい笑顔を浮かべて言ったという。

「あー、やっぱり笑うって大事だわー」